

令和5年4月7日

京口門だより No. 114

桜も満開から葉桜に変わってきました。暖かくなったとはいえ朝夕の冷えを感じずる季節です。新型コロナ感染症も減少傾向になり、国の基準も2類から5類に変わりマスクをしなくてよい場合もできましたが、日本人はやはりマスクをしている人が多く、外国人の旅行客はしない人が多いようです。「暖かに日を吸いふくむコート脱ぐ」（星野立子）

中国の古い医書に「春三月はこれ発陳という」とあり、万物が生氣を発生する季節であると言っています。ただ良いことばかりでもなく、冬の寒さから春の暖かさの変化に身体や心が伴っていかない場合もあります。特に精神的な病に罹っている人は、この季節に心のバランスをくずして、不安やイライラや不眠などの症状が出て悪くなることもあります。また身体の自律神経のバランスも崩れやすく、疲れやすくなったり、頭痛、動悸やメマイ、不安定な消化器症状を起こしやすくなります。

このような不安定な状態に対して単に抗不安剤や安定剤が処方されても、なかなか上手く治めることはできません。それぞれの人の発症の背景をよく見定めて個別的に対処しなければならぬと思います。漢方薬は多彩な症状に対して多くの薬方で対処できますし、鍼灸治療は不安定な自律神経の失調を安定した状態に変えてゆく力があります。

例えばこのような季節的な変化によるものではありませんが、若い人の起立性調節障害という病気で、通学できなくなったり、不登校に陥る若い人がいます。以前にも述べたことがあります。単に一過性に血圧が下がっているという外面的なことにこだわるとうまく治療ができません。それぞれの若者の原因と思われる病状に即して、処方しなければなりません。つまり個別的治療が必要で、一般化された標準医療では対処できないと思います。

また拒食症というような病気も、入院してコントロールするだけでは治る希望が持てません。その人その人の個別の背景を診て漢方薬を選択しなければ良くなりません。

どうか漢方治療の利点を知って上手に治療を受けていただければと思います。

